

NGO集い 国際援助隊

まず6団体で旗揚げ



4つのNGOが合同で援助にあたったソマリア難民緊急救援活動（93年1月、ケニアで）

持ち味生かし迅速対応

世界各地で地震などの災害に襲われた人々や、戦争で生じた難民の救済に、国際的なNGOが二枚協力して現地に対応できるように、国際的なNGO6団体が8月午後、日本緊急救援NGOグループ（代

表世話人・菅波茂氏）を旗揚げする。民間版の国際緊急援助隊ともいえるもので、参加した団体は「それぞれの団体の得意分野を生かして、支援先のために活動ができる」と、他の団体にも広く参加を呼び掛けている。

同グループはアジア医師連絡協議会（AMDA）、アフリカ教育基金の会（Africa Education Fund）、立正佼成会、四つのNGO合同で、93年1月から行っているソマリア難民緊急救援活動に参加。AMDAは医療、AIECは社会福祉、教育活動、聖職団体の生活物資の補給、立正佼成会は国際機関や国との折衝を担当し、AIECは国との折衝、学校の再建で、難民キャンプ、ケニアに送られた難民の支援にあたる。

菅波氏は「国際緊急援助隊の旗揚げは、それぞれの団体の持ち味を生かして、それぞれの得意分野の活動を強化して、国際緊急援助活動の成功に寄与することを目的としている」と述べた。

菅波氏は「国際緊急援助隊の旗揚げは、それぞれの団体の持ち味を生かして、それぞれの得意分野の活動を強化して、国際緊急援助活動の成功に寄与することを目的としている」と述べた。

は、CARE-JAPAN、日本国際救済行動委員会等の団体も加わり、ソマリアでの活動をモデルに、世界各地で起きている地震、噴火などの災害や難民の救援に合同である。各団体の持つ被災地、難民キャンプについての情報を交換、現地が必要な救援活動を依頼して行っている。菅波氏は「国際緊急援助隊の旗揚げは、それぞれの団体の持ち味を生かして、それぞれの得意分野の活動を強化して、国際緊急援助活動の成功に寄与することを目的としている」と述べた。

の資金援助なども活用している